

政策評価・事務事業評価実施後における執行者対応等検証シート

【事業名称】「こどもプラッツ推進事業」

	H30年度予算額	H29年度決算額	H27年度決算額（評価実施年度）
事業費	115,363,000 円	99,829,827 円	44,509,604 円

○事業評価チェック表（政策評価・事務事業評価実施時における事業概要及び事業実績並びに評価結果）

PLAN	<ul style="list-style-type: none"> 事業の概要 就労者世帯等の子育て支援として、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生に対し、小学校の余裕教室等を利用して、子どもたちの安全・安心な活動場所の確保を図る。 ねらい <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブ（学童クラブ）を補完する事により、待機児童の解消に寄与する。 運営スタッフは地域の人材を活用し「地域のこどもは地域で育てる」を実践する場として、地域力の向上にも役立っている。 一人親世帯や多子世帯の児童を優先的に受け入れることで、経済的な負担の軽減になっている。 予算 平成27年度当初予算 70,000,000円 					
	<ul style="list-style-type: none"> 事業実績 平成26年度から新規事業として市内小学校の余裕教室等を借用して開設。 平成26年度：11小学校、当初児童数126名（実績：132名） 平成27年度：19小学校(8校増)、当初児童数490名（実績：507名） 平成28年度：20小学校(1校増)、当初児童数916名 開設日：平日は月曜日～金曜日の放課後～午後5時45分まで 長期休業中は月曜日～金曜日の午前8時30分から午後5時45分まで 対象児童：開設小学校に通う就労者世帯の全ての小学生 利用料金：月額3,000円（8月のみ5,000円） 					
ACTION	評価	総合評価基準	計	80/100	課 題	
		5 きわめて良好である 80点以上	○	5		需要増加に伴う運営スタッフと空き教室の継続的な確保について、工夫・検討を要する。また、一人親世帯や多子世帯の入室数の把握や市の組織強化、夏休み期間の保育需要への対応、入室定員の明確化等への取組が必要。
		4 適正である 60～79点				
		3 おおむね適正である 40～59点				
		2 問題がある 20～39点				
		1 不適正である 19点以下				
今後の方向性基準評価評価（該当欄の○）	評価	4	決定理由			
5 「拡充する」	○			放課後児童クラブの補完事業という性質から、保育需要の動向を見極め、待機児童を吸収しうる規模のまま継続する。事業継続にあたり、施設面での環境整備を併せて行う必要がある。		
4 「現状のまま継続する」						
3 「改善・効率化し継続する」						
2 「見直しのうえ縮小する」						
1 「不適正である」						

○執行者対応等確認表（委員会の評価結果を受けての執行者の対応）

CHECK	事業実績の比較、評価後の改正点等	<ul style="list-style-type: none"> 政策評価・事務事業評価実施後の事業実績（評価実施時との比較） 政策評価・事務事業評価実施後の改正点、または見直しを行った点（改正等を行わなかった場合は、その理由等） 平成28年度は20小学校、当初児童数916名で実施していた事業であったが、平成30年度は1校増の21小学校、当初児童数は463名増の1,379名の大幅増となり、こどもプラッツは放課後児童クラブを補完し、待機児童の解消に寄与していると考えられる。 このような急激な児童数の増加により、運営スタッフ及び児童を預かる空き教室の確保が課題となっている。その対策として、運営スタッフの確保については、太田市広報やホームページに募集記事を掲載するほか、地区回覧板でのチラシの回覧やハローワークに募集依頼をするなど、地域の人材確保に努めた。 また、学校の空き教室の確保については、校長会や教頭会で事業協力をお願いするとともに、新年度の開設に向けて、学校施設調査を実施し、各校の空き教室の把握をしている。学校から提供を受けた教室にエアコンが整備されていない場合は設置し、夏季休業中の子どもやスタッフの安全な居場所づくりに努めた。
	今後の事業方針	<ul style="list-style-type: none"> 今後の事業方針（事業実績に対する評価も含む） 今後もこどもプラッツの需要は増えるものと考えられるため、事業を継続してまいりたい。子どもたちの安全・安心のため、運営スタッフの質の更なる向上のための研修会やこどもプラッツへの訪問指導に取り組んでまいりたい。

○検証結果（執行者の対応に対する委員会の評価）

ACTION	対応への評価、課題・改善点等（今後の事業展開等含む）	委員会における検証結果
		<p>こどもプラッツは待機児童の解消を目的に放課後児童クラブを補完する形で実施され、当初は11小学校126名の児童数でスタートしたが、現在では21小学校1,379名となり、数年で大幅に需要が増えたことがわかる。市民のニーズにマッチした本事業は待機児童解消等に大きく寄与しており、高く評価したい。</p> <p>一方、急激な利用者数の増加に伴い、空き教室や運営スタッフの確保、スタッフの資質の向上等がこれまでも課題として挙げられていたが、子どもたちの安心・安全な場所の確保という点で、スタッフのスキルアップは必要不可欠であり、親が安心して子どもを預けられるような人材の育成については重要視していただきたい。また、放課後児童クラブを補完するこどもプラッツであるが、両者を比べた場合、金額の面で大きな開きがあるため、今後については両者のバランスが取れた運営を期待したい。その中で、第2子以降の支援策についても考えていただきたい。</p>